

浅科村史◎目次

題字 佐藤治郎

口 絵

発刊のことば

「佐久は一つ」の一環を担つて

例 言

浅科村長・刊行会長 佐藤治郎

浅科村史編纂委員長 木内 寛

第一部 自然編 —自然と共に—

1

第一章 浅科村の大地と気象 2

第一節 浅科村の概要 2

第二節 浅科村の大地の成り立ち 5

一 浅科大地の生い立ち 5

二 浅科の化石 8

第三節 浅科の気象 10

一 浅科における気候の温暖化 10

二 地域気象との関連 12

11

10

10

8

5

5

第二章 浅科の植物 13

第一節 浅科村の古木・大木 13

第二節 浅科のサクラ 15

第三節 浅科の植物の特徴 16

一 アカマツの育つ適地 16

二 カラマツ（唐松、落葉松） 16

三 乾燥地に育つクヌギ 16

四 竹林の拡大 16

第四節 植物を追つて 18

18

17

16

16

16

16

13

第一節 原始	73	春に見られる花より	18
第二節 浅科の鳥		二 道端の草より	20
第三節 野山の鳥		三 草地の草花より	21
第四節 春から夏にくる鳥		四 山の植物他	22
第五節 冬の鳥		五 その他の植物から	23
第六節 池や千曲川の鳥		六 子供が食べたもの	24
第七節 浅科の両生類		身近なキノコ	25
第八節 浅科の魚		一 キノコとは	25
第九節 千曲川の魚		二 冬虫夏草とは	26
第十節 池や川にすむ魚		三 キノコ雑記	26
第十一節 土の中で越冬するドジョウ		四 中毒防止と毒キノコ	27
第十二節 最近の外来種		五 食用キノコと食べ方	28
第十三節 清流魚		第一節 哺乳動物	33
第十四節 昆虫類		第二章 浅科の動物	33
第一節 原始	74	第三章 浅科の動物	30

74 73

一 旧石器文化のあらまし
二 旧石器時代の生活
三 浅科村周辺の遺跡

第二部 歴史編

第一節 旧石器時代

77 76 74

71

第一節 旧石器文化のあらまし	74	第二節 浅科の鳥	41
第二節 旧石器時代の生活	76	一 身近の鳥	41
第三節 浅科村周辺の遺跡	77	二 野山の鳥	42
第四節 春から夏にくる鳥		三 春から夏にくる鳥	42
第五節 冬の鳥		四 冬の鳥	44
第六節 池や千曲川の鳥		五 池や千曲川の鳥	45
第七節 浅科の両生類		第六節 浅科の両生類	46
第八節 浅科の魚		第七節 浅科の魚	47
第九節 千曲川の魚		一 池や川にすむ魚	48
第十節 池や川にすむ魚		二 土の中で越冬するドジョウ	49
第十一節 土の中で越冬するドジョウ		三 最近の外来種	50
第十二節 最近の外来種		四 清流魚	51
第十三節 清流魚		第五節 昆虫類	52
第十四節 昆虫類		第一節 哺乳動物	59
第一節 哺乳動物	71	第二章 浅科の動物	58
第二章 浅科の動物		第三章 浅科の動物	57

第二節 縄文時代	80	80
一 縄文文化のあらまし		
二 浅科村の縄文文化		
第三節 弥生時代	90	83
一 弥生文化のあらまし	90	90
二 長野県の弥生文化のようす	93	93
三 浅科村の弥生文化	95	95
第二章 古代	101	101
第一節 古墳時代	102	102
一 古墳時代のあらまし	102	102
二 地方の古墳文化	103	103
三 浅科村の古墳文化	104	104
四 古墳時代のむら	106	106
五 古代の道—古東山道	120	120
第二節 奈良・平安時代	125	125
一 奈良・平安時代のあらまし	125	125
二 浅科村の奈良・平安時代の遺跡	127	127
第三節 中世的世界の芽生え	130	130
一 信濃御牧と望月牧	133	133
二 生産と流通	149	149

第三章 中世	153	153
中世のあらまし—東山道を往来する人と文化—		
第一節 鎌倉武士の系譜—源平の争乱から鎌倉時代—		
一 治承寿永の内乱と佐久	158	158
二 鎌倉幕府のなかの望月氏	163	163
三 大井氏の入部と佐久の武士の移住	166	166
四 戦乱と鎌倉幕府	167	167
第二節 動乱の時代をいきる—南北朝・室町・戦国時代—	169	169
一 南北朝の内乱	169	169
二 大井氏の佐久支配（室町時代）	175	175
三 武田信玄（晴信）の侵攻と大井・望月・依田氏	183	183
四 矢嶋氏を探る	189	189
第三節 中世をかたる浅科の文化財	198	198
第四節 長念寺文書を読む	198	198
一 長念寺文書を読む	198	198
二 浅科の寺院・神社	204	204
三 依田氏の残した文書	207	207
第四章 近世	209	209
あらまし—新田開発と中山道宿駅制度を軸として—		
第一節 徳川幕府の分割支配と佐久		
一 戦国佐久を締め括った依田信蕃	213	213

二	仙石氏の小諸入城とその施政	215	四	諸職の展開	331
三	分割支配はじまる		五	打ち続く災害	
四	幕府領の展開	217	一	寛保の水害	349
五	諸領の実態	219	二	天明の浅間山噴火と上信一揆	349
第二節	はじめに	221	三	天保の凶作	352
第一節	検地と貢租	227	第八節	中山道と宿場	360
一	検地の徹底	227	一	歴史の道、中山道をたどる	360
二	貢租	235	二	中山道塩名田宿	365
第三節	新田の開発	251	三	千曲川往還橋と橋組合	380
一	佐久の新田開発	251	四	八幡宿と助郷制度	400
二	五郎兵衛新田の開発	254	五	和宮の通行と八幡宿	427
第四節	村の仕組みと生活	270	六	交通路の変遷	455
一	江戸時代の村	270	第九節	文化の諸相	469
二	村政の仕組み	276	一	寺子屋と筆冢（塚）	469
第五節	村の構成	283	二	華道	469
第一節	部落差別の強化	296	〈特別寄稿〉 塩名田の俳諧	482	
一	近世の部落差別	296	二	中山道筋の近代の夜明け	478
二	浅科村域の部落	299	三	新しい行政区画と村	497
第六節	農業と諸産業の展開	307	三	近代国家の支え	498
一	農業経営の実態	307			501
二	地主と小作	322			498
三	林野の諸相	318			498

第五章	近現代	497	第一節	村の近代化（明治元年～二十一年）	497
一	中山道筋の近代の夜明け	498	二	新しい行政区画と村	498
二	新しい行政区画と村	501	三	近代国家の支え	507

四	初期の産業.....	514
五	社会の変化.....	522
六	村の文明開化.....	527
		531
	第二節 村の自治の展開（明治二十二年～明治末年）.....	531
一	地方自治の発展.....	533
二	国・県・郡の政治と村の自治.....	537
三	産業・経済の発展.....	543
四	日清・日露戦争と社会問題.....	543
五	義務教育の確立.....	555
六	文化活動の普及.....	557
		562
	第三節 村の近代化（大正期）.....	562
一	国・県・郡の政治と村の自治.....	559
二	第一次世界大戦と産業.....	559
三	社会問題と社会運動.....	569
四	生活の近代化.....	573
五	小学校教育の進展.....	577
		580
	第四節 恐慌と戦時下の村、自治の変質	580
一	（昭和元年～二十年）.....	580
二	昭和恐慌と村.....	587
		599
	二 産業の転換.....	599

三	大陸への進出.....	603
四	戦争体制と国民の生活.....	606
五	統制経済.....	606
		611
	第五節 戰時体制と教育・文化.....	611
六	健康管理.....	621
七	戦時体制と教育・文化.....	621
八	太平洋戦争下の生活と敗戦.....	628
		638
	第六節 村の再発足（昭和二十年～二十九年）.....	638
一	戦後の復興と村政.....	641
二	産業経済の復興.....	642
三	社会事業の進展.....	646
四	社会生活の向上.....	648
五	交通・通信機関の拡大.....	648
六	新しい学校教育.....	655
七	社会教育.....	666
		669
	第六節 浅科村の軌跡（昭和三十年～平成十五年）.....	669
一	浅科村の創基.....	669
二	経済成長.....	673
		687
三	生活の変化.....	687
四	浅科村の進展.....	690
五	市町村合併.....	690

第三部 民俗編

第一章 一年の生活 ······	692	第四節 信 仰 ······	691
第一節 年中行事 ······	692	一 寺社の祭り ······	691
第二節 ムラの一年 ······	692	二 特徴的な信仰とまつり ······	691
第三節 衣・食・住 ······	692	第二章 人の一生 ······	691
一 衣生活 ······	723	第一節 誕 生 ······	691
二 食生活 ······	722	第二節 結 婚 ······	691
三 住 居 ······	721	第三節 葬 制 ······	691
『浅科村史』関係者名簿 ······	721	721	721
参考文献・資料 ······	721	721	721
編集後記 ······	721	721	721
浅科村のあゆみ／年表 ······	755	744	744
845 839	755	744	744